

黎明

春季大祭
春の学鍊特集

(第)一集「光新聞」(「光」)
地教重奇說信靈
地上天國
御教之集
御示錄
御光話辭
奇蹟集
說話集
信即雜話
靈界談

原典與附屬書

邪

34

明主様御真筆

明主様の御救いについて

(その11)

浄化作用 (一) 会長 多田 光行

ります。わが国に於けるかぜの權威の一人である加地正郎博士はある本の中で次のように述べて居られます。

した。そのために、ややもすると私共は、お説きいただいた深い真理の表面だけを、長い間の既成の考え方の影響のた

の鈍化、齒齦腫瘍、齒牙の劣弱、息切れ、手足の弛緩、腰痛、浮腫等々により、活動力が減殺されるからで、それが為人間本来の生命を害するからである。

神は、人間を造つておき乍ら、病氣などという人間を苦しめ、活動を阻害するよ
うなものを与えられる筈はなく、常に健

明主様は、人間にとって最も重要な「生命」の問題、特に「病氣」に関する御教えを数多く私共に説いて下さって居りま

三十三年の秋、ロンドンにほど遠からぬ
ソールズベリーのカゼ研究所を訪れた時
のことです。

分っているかのような錯覚に陥ってしま
う場合が多かったのではないかと思いま
す。更に、その自己流に受けとらせてい

右の如く、毒素排除作用の苦痛が病氣であるとしたら、病氣こそ浄血作用であり、健康上最も必要なもので、神の恩恵

のて止むなく持続の必要が有る。それ
病氣であるとすれば、寒冒の場合も何等
の療法もせず、自然に放任しておけば寧ろ
全に争ひが行われるから、頓調に治り、

たたいと思ひます。初共にとりまして、かぜは誰しもが経験し、最も身近な病氣であります。人は年に平均七回もか

かえる白塗りの簡素な研究所に案内してくれた、チレル博士は、話がすむと、同じ構内にある別棟の自分の住まいへ招待

ます。そのようなことがないためにも
私共は今一度、かぜ。に関する御教えを
一言一句ゆるがせにしないで、拝読させ

も知れないのである。処が私は、病なき世界を造るというのであるから矛盾するように思ふであらうが、これは根本的に

そうすれば結核などという恐ろしい病は
を絶つのである。

それられ、しかもこれ程進歩したと言われている現代医学に於てすら、根本的解決法がまだ見出されていないようであ

女のことがハシマで強のままで現われました。すこし顔がほてっているような赤い顔をして、お人形を抱いていました。「私の娘です」と紹介した博士は、「この娘は

歩させて来た医学は、どの点に最も欠陥があるかを、順を返うてかいてみるが、それに就いては先づ、実際の病氣を取上げて説明してみるのが、最も判り易い。

夫に弊もなくなるのは幸ひであらう。此意味に於て私は、之から出来ただけ解り易く徹底的に説いてみよう。

痛と間違えたのだから堪らない其為熱を
恐れて下げようとする。下熱すれば毒結
の溶解が停止されるから、咳嗽を初め

いまカゼをひいてやすんでいるところなのです。こればかりは私たちでもどうにもならない。』といって肩をすくめました。そして、私たちは顔を見あわせて笑ったのです。同じカゼの研究をしている者同士に通じる、ほろにがい笑いでした。

(中略) 医学者たちは手をこまねいているのではありません。(中略) やがてはカゼの特効薬が出現するかもしれません。そうなる、これはノーベル賞クラスの発見となるでしょう。(「かぜ」より)

私共素人にとつては、かぜの真の原因、またその根本的治療法ぐらひはすでに解決済みと思われがちですが、中々そう簡単な問題ではないわけであります。

明主様は、その真の原因と解決法を御垂示下さっているわけであります。しかも、いままでは何人もが知り得なかつたその根本原因を、実に深いところから、また何人にも分りやすく説いて下さいい

らそういう事にする。

先ず、人間として、何人も経験しない者のない病としては寒胃であらう。処が寒胃の原因は医学では今以て不明とされておゝり、近來僅かに発見されたのがウィールスによる空気伝染とか、アレルギー性によるとか言われている位で、吾等からみれば問題とするには足りない推説である。此説も近き將來無意味とされる事は間違ひあるまい。

抑々、人間は先天的に種々なる毒素を保有している事は、医学でも認めている。例えば、天然痘、麻疹、百日咳等は元より未知の毒素も色々あるであらう。処でそれら毒素は自然生理作用が発生し、外部へ排泄されるやうとする。これを吾等の万では浄化作用と言う。そうして毒素は、最初一旦人体の各局部に集溜する。其場合神経を使う処程多く集まる。人間が最も神経を使うのは上半身特に頭腦に近い程なのである。人間が目が醒めている間、手足は休む事はあつても、頭腦を始め、目、耳、鼻、口等は一瞬の休みもない。

私は淨化作用と名付けたが、先ず初め寒
冒に罹るや発熱が先驅となる。自然は固
結毒素の排除を容易ならしめんが為、熱
で溶解させ液体化するのである。此液毒
は速かに肺に浸入するが、此作用は実に
神秘であつて、例えは吾等が淨鹽（之は
療病法の名称）によつて、固結毒素を溶
解するや、頭髮をいれず肺臓内に浸入す
る。其場合筋肉でも骨でも透過してう
のである。何しろ身体各局所にある固結
毒素（以下毒結と称す）が、普通一、二
箇所位なら軽い症状で済むが、局所を増
す毎に重くなる。最初軽いと思つた寒冒
が漸次重くなるのは、そういう訳である
右の如く、液毒は迅速に肺臓内に浸入
し、稀薄な場合は痰となつて即時排泄さ
れるが、濃度の場合は一時停滞し、咳と
いうポンプ作用を得て、間もなく氣管
を通じて外部へ排泄される。咳の後には
必ず痰が出るにみても明かであり、嚔の
後に鼻汁が出るのも同様の理である。又
は、咽喉の痛み、中耳炎、淋巴腺炎、

2面上段へつづく

